＜中学校　社会＞

自ら学び考え，楽しさを実感できる授業の工夫

－学び方を学ぶ学習と討論学習を通して－

豊見城市立伊良波中学校教諭　比　嘉　正　樹

内容要約

学び方を学び，自ら学び考えたことを討論学習を通して参加・活動することにより，楽しさを実感することができる授業についての研究をすすめてきた。事例を通して課題学習を展開することで，学び方の技能が身に付き自ら学び考える生徒を育むことができた。更に，討論学習会を行い，より多くの生徒に発言の機会が与えられたことにより，授業の楽しさを実感する生徒を育むことができた。

【キーワード】　学び方を学ぶ　　自ら学び考える　　楽しさを実感する授業　　指名無し討論

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由 …… 51

Ⅱ　研究内容 …… 52
　1　自ら学び考える力 …… 52
　2　学び方を学ぶ学習 …… 52
　3　楽しさを実感する授業 …… 53
　4　楽しさを実感する討論学習の工夫 …… 54

Ⅲ　授業実践 …… 55
　1　単元名 …… 55
　2　単元について …… 55
　3　観点別評価の規準 …… 56
　4　指導計画と評価計画 …… 57
　5　本時の指導計画 …… 57

Ⅳ　研究の考察 …… 59
　1　調べ方や学び方を身に付けることができたか …… 59
　2　自ら学び考えることができたか …… 59
　3　授業の楽しさを実感することができたか …… 60

Ⅴ　研究の成果と今後の課題 …… 60
　1　研究の成果 …… 60
　2　今後の課題 …… 60

＜中学校　社会＞

自ら学び考え，楽しさを実感できる授業の工夫
― 学び方を学ぶ学習と討論学習を通して ―

豊見城市立伊良波中学校教諭　　比　嘉　正　樹

Ⅰ　テーマ設定の理由

学習指導要領において基礎・基本を身につけ，それを基に自分で課題を見つけ，自ら学び考え，主体的に判断し，よりよく問題解決する能力等の「生きる力」の育成が基本的なねらいとされている。社会科に関しても，自ら学び，考える力を育成することの一環として学び方を学ぶ学習を重視した改訂を行い，それは，社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成することをも意味している。従来のような知識偏重の学習にならないように留意し，広い視野に立って理解を深める取り組みをおこなうことが大切とされているのである。それとともに，生徒の特性に応じて主体的な学習が展開できるようにすることが重視されている。

教育課程審議会における社会科の「現状と課題」（H9.11）による生徒の学習状況については，知識や提示された課題を調べる態度は比較的身に付いているとされている。しかしそれらの知識をもとに様々な視点から諸地域の特色や歴史的事象などを考察したり，それらを自分なりに考えて意見を述べたりする能力については，十分でない面がみられるとされている。

実際の授業においても発言や発表を行う場面で，教師側からの指示等がない場合，知識・理解が高い生徒のみの活動となる場面が多い。他者の前で間違えることを恐れ，発言に慣れておらず，発言したくても消極的で発言することが苦手な生徒が多々いるのである。その理由として，知識・理解は身に付いていても自ら学び考え，主体的に授業に取り組むことが苦手であることや，考えたことをうまく表現できないことが考えられる。教師主導型で一方的に展開される授業はつまらないはずである。答えが一つしかなく，それを覚えている一部の生徒（知識・理解が高い生徒）のみが活躍する授業も同様である。このような授業を繰り返すことにより多角的に考察したり，自ら考え意見を述べることが十分にできない生徒へとつながると考える。

自ら学び考える力を育て，授業の楽しさを実感できるようにするためには，事例を通して課題を追究・考察する問題解決的な学習を展開し，学習の過程において調べ方や学び方，見方や考え方を学び，身に付けることができるように教師が指導・支援しなければならないのである。そのためには教師自身が「自ら学び考える力」とは何か，「学び方を学ぶ」とは何かを理解していなければならない。また，生徒が楽しさを実感できる学習の支援・指導を行わなければならない。その方法として事例を通して課題学習を展開し，自ら学び考えたことを他者に表現・発信する場において討論を取り入れることにより主体的に学習を促し，多くの生徒に発言の機会が与えられると考える。その結果，自ら学び考え，楽しさを実感することができるのではないだろうか。

本研究において，自ら学び考える生徒を育成するにはどのような取り組みが必要か。そして，生徒が楽しさを実感できる授業をどのように構成すればよいか追究したいと考え，本テーマを設定した。

＜研究仮説＞

1　事例を通して課題学習を展開したならば，学び方の技能が身に付き，自ら学び考える生徒の育成ができるであろう。

2　自ら学び考えたことを他者に表現・発信する場において討論を行い，より多くの生徒に発言の機会が与えられることにより，意欲的に学習に参加し，授業の楽しさを実感することができるであろう。

Ⅱ　研究内容

1　自ら学び考える力

「自ら」とは文字どおり「一人一人が自分の意志で」ということである。それは，学習への目的意識と方向性をもって主体的に取り組む姿である。自ら学ぶ力は，自分で目的意識や方向感覚を持ち，それに向かって自分なりに情報を集め，自分自身を訓練・鍛錬する場を見つけ，自分の気持ちを支え励ましながら自分自身に学びを続けさせていく力である。

その事をふまえ「自ら学び考える」学習を進めるためには，自ら学ぶことができるように生徒に力を付けさせていくように，教師が適切に指導・支援することが必要となる。自ら考えることができるように生徒に力を付けさせるのである。そのためには，学習指導において基礎・基本の確実な習得を図るようにすること。更に，「自ら学び考える」ことができるようになるための知識や技能，態度や能力を身に付けさせることが必要となるのである。

2　学び方を学ぶ学習

(1) 学ぼうとする力を育む

学び方を学ばせるためには，まず生徒に「学ぼうとする力」を育むことが大切となる。そのために教師は，生徒の学習への興味・関心を喚起していくための工夫をしなければならない。生徒に興味・関心を抱かせるために，提示する課題や発問を考えるのである。こんな課題や発問なら自分でも調べたり考える（学習に参加する）ことができると生徒が感じるもの，知識・理解の高低に関係なくどの生徒でも参加することが可能な課題や発問を考えるのである。例えば答えが一つとは限らない，答えが多岐に広がる課題や発問である。「沖縄県と北海道はどちらが住みやすいか」「豊臣秀吉と徳川家康の政策はどちらが良いか」「アメリカに住むのは損か得か」などである。学ぶことに興味・関心を持つことにより，学ぼうとする力が生じるのである。

(2) 「学び方を学ぶ」学習の工夫

これまでの社会科の学習は，ややもすると学習の過程よりも結果が重視されてきた。しかし，事実認識の結果を覚えるといった学習の仕方では，変化の激しい現代社会では十分に対応できない現状がある。現状況に対応するためには事例を通して課題を追究，考察する学習などを展開し，その学習過程において調べ方や学び方，見方や考え方を学び，身に付けることができるようにしなければならない。「学び方」を身に付けさせるためには「学び方を学ぶ」学習の工夫が必要となる。学び方を身に付けさせるためには，これまでの講義式の一斉授業だけでは困難である。「学び方」のほとんどが学習の過程で培われるものであり，生徒自らが作業的・体験的に学んで初めて効率的に育成できるものだからである。このことから社会科の学習においては，その過程を重視し，生徒が主体的に問題解決的な学習に取り組めるように場を設定し，授業の工夫・改善をしていくことが大切である。

(3) 「学び方を学ぶ」学習の視点と方法

①　「How To的側面」

How To 的側面とは，生徒の「学び」を成立させるための基本的な技能を指すもので，問題を発見する技能，調べる技能，表現する技能，聞く技能，話し合う技能などである。具体的には教科書や地図帳，資料集などの活用の仕方，電話のかけ方，インタビューの仕方，インターネット活用の仕方，発表やノートのまとめ方等である。

②　「プロセス的側面」

多面的・多角的に思考・判断するといった問題を解決していく筋道や思考の方法でプロセス的側面がある。「このように活動していこう。→よしうまくいった。次はこうしてみよう。→あれ，うまくいかないな。ではこうしたらどうか。→このような行い方も考えられるな」などのように自分の「学び」の方針を示す。ここには柔軟で多様な思考回路と活動力が必要である。

③　「学び方を学ぶ」教師の支援

How To 的側面とプロセス的側面の２つが結び付いてこそ，生徒一人一人の「学び方」が育つのである。この「学び方」が生きる力となり，生涯にわたって学び続けるための基礎を培うこととなるのである。そのために教師は学習の際，「どこで調べるのか，何を使ってどのように調べるのか，なにが必要であり，必要でないのか」など，学び方を学ばせる等の支援を行う必要がある。

また「自ら学び考える」ことは，表現する活動と一体となって行われ，自らの考えを教師や生徒などの他者に表現・発信することによってその考えが確認されたり修正されたりする。自ら学び考える力を育成するには表１のような教師の支援・手だてが必要である。

表１　自ら学び考える力を育てる教師の支援・手だて

問いを発見する技能	情報を収集する技能	情報を整理表現する技能	情報を分析する技能
（１）教科書や資料・史料などを見せ，わかったこと，思ったこと，考えたことをノートに書かせる。 （２）因果関係に着目した問いを発見させる。（～なのは～だからだろうか） （３）調べたいことをグループやクラスで発表し合うことができるようにする。 （４）他者の意見を聞いて，自分の問いを変化させることができるようにする。	（１）収集する目的を決めさせてノートに書かせる。（なぜ収集するか，何に使用するために収集するかを書かせる） （２）調べる計画をノートにまとめさせる。（いつ，どこで，どのような手段で，何を使って調べるかを書かせる） （３）実際に情報を収集させる。 （コンピュータ，事典，図鑑，統計，年鑑，新聞，雑誌，インタビュー，知識を持った人からの聞き取り） →書籍等の資料は図書室などに揃っているか事前に確認する。（足りない場合は教師が前もって準備する） （コンピュータの活用方法も事前に教師で指導しておく）	（１）言語による表現（討論，対話，発表）の指導を行う。 （２）文字や資料による表現の指導を行う（レポート，ポスターセッション，地図，年表，統計，グラフ，社会科新聞など） （３）映像による表現の指導を行う。（撮影したビデオを見せながら発表させる） （４）コンピュータによる表現の指導を行う。（文字入力，写真やイラストの取り入れ，パワーポイントの使用法など） （５）構成活動による表現を指導（壁新聞，社会科新聞の書き方）	（１）気がついたことや，わかったことを発言させる。 （２）比較させる（違うところを指摘させる） （３）自分の意見を言うことができるようにさせる。 （４）各種の資料から情報を分析できるように指導する。（わかったことを説明できる。記述的知識を抜き取ることができる。変化の大きいものを確認することができる。二つの統計を比較できる等）

(4)　学んで得たものを応用する

「問いを発見する技能」，「情報を収集する技能」，「情報を整理表現する技能」，「情報を分析する技能」を駆使し，生徒は自ら学び考える学習に取り組む。更に自ら学び考えた結果得たものを，よりよく豊かにするためにそれを活用・創造しなければならない。そのために教師は，討論学習やポスターセッションなど様々な方法を授業に取り入れなければならない。生徒はそこで，知識・理解等として取り入れたことを他者に向かって表現したり，討論などにより考えを構築させるのである。自分の学びや考えは正しいのか考察し，他者の考えや学びを受け入れていく。このような学びの共有化を図ることにより学びを更に深め，自分の知識・理解等をよりいっそう確実に習得していくのである。

３　楽しさを実感する授業

楽しさを実感する授業とは，生徒の知識・理解の高低に関係なく生徒自身が自ら学び考え参加する授業，あるいは活動のある授業である。その結果，目標の達成によって知的達成感を得たとき生徒は，さらなる知識獲得への意欲，学習活動への積極的な参加の態度を示すようになる。自ら学び考え参加する活動のある授業の例として，図１のような場面に応じて取り入れられる学習方法や学習

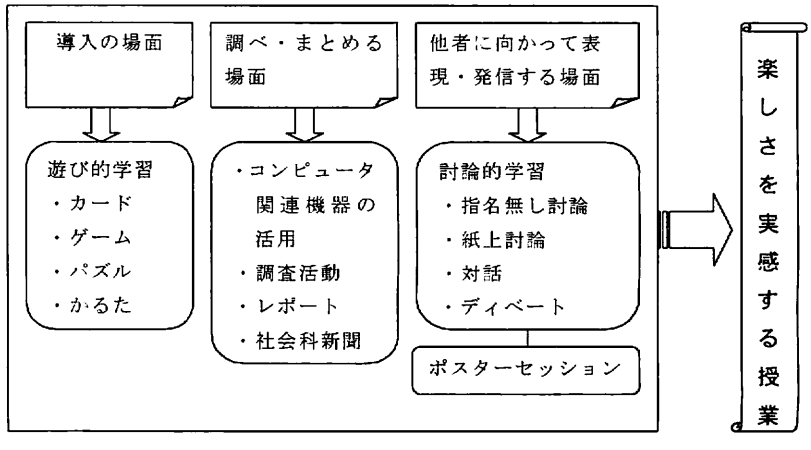


図１　楽しさを実感する授業

活動がある。導入の場面における遊び的学習。調べまとめる場面におけるコンピュータ関連機器の活用，調査活動，レポート，社会科新聞づくり。他者に向かって表現・発信する場面における討論的学習やポスターセッションなどがある。教師の話を一方的に聞くだけの授業ではなく，このような体験的・活動的な学習を通して，学ぶ楽しさを実感することができる。

4　楽しさを実感する討論学習の工夫

(1) 討論学習の意義

討論とは「ある問題について何人かが意見を述べあって，議論をたたかわせること」である。したがって討論学習を行う場合，最低限生徒各自が自分の意見や考えをもってそのことを他者にむかって表現・発信しなければならない。一斉授業において教師が一方的に話し，たんたんと授業を進めた場合，その内容をきちんと把握し自分の知識・理解として取り入れることができる生徒もいるだろう。反面，教師がいったい何を理解させたいのか，何を言っているのかさえ理解できない生徒も存在する。どのような生徒でも，はじめは教師の説明に耳を傾けどうにか理解しようと努力するものである。しかしそのことが自分には理解できない（学習についていけない）と判断した場合，時間潰しのためにおしゃべりや落書きをしたり，友人あてに手紙を書いたりなど授業とは関係ないことを行いはじめるのである。つまり授業に「参加」することをあきらめてしまうのである。

討論学習の意義は，知識・理解の高低に関係なく，生徒が全員授業に参加することが可能であり，授業の楽しさを実感することができるところにある。事前学習（調べ・まとめる段階）において，自分の意見や考えをノートにまとめておくことさえできていれば，少なくとも討論（授業）に参加することができるのである。すでに書き終えたノートを読んでもよいからである。では自分の意見や考えを書くことさえできない，あるいは書いたが他生徒の前では発言することができない生徒がいた場合はどうするのか。討論学習支援のための手だてを考えなくてはならない。

(2) 討論学習支援のための手だて

いきなり授業でテーマを与え「今日は討論会を行います」といっても簡単にできるわけはない。知識・理解の高い一部の生徒が少々発言し，後は何の発言もなく時間だけが有り余る状態になることが予想される。生徒全員が討論に参加するためには，討論に至るまでの段階をふまえ討論のすすめ方を考えなくてはならない。

①　全員朗読から始める

授業中に一人一人全員に朗読等をさせることにより，他者の前に出ることや他者の前で声を出すことに慣れさせる。更に生徒自らの判断で立って朗読することによって，受け身の授業から能動的な授業へ変わるのである。朝の会や帰りの会の司会，又は道徳や学活において形を変え，同様のことができるとさらによい。

②　全員発表にすすむ

全員朗読に慣れた後，全員発表にすすむ。社会科の学習においては，資料や史料等を活用した学習の場面が多々でてくる。一つの資料を提示し，「この資料を見て気がついたこと，わかったこと，わからないこと，思ったこと等何でもいいからノートに箇条書きしなさい」と指示する。机間指導等により一人一人何か書いてあるかを確認する。確認後，ノートに書いたことを全員が必ず発表する。（発表に慣れる）

③　全員討論に参加する

発表に慣れたらワンランク上の討論へとすすむ。討論を行うには生徒全員が何らかの考えや意見を持っていなければならない。そのためには内部情報をできるだけ多く蓄積する必要がある。調べ学習において蓄積した情報を教師は必ず確認する。教師が確認した内容であれば生徒は自信をもって討論で発言することにつながる。

(3) 討論学習における教師の指導・支援

討論学習に至るまでの流れは，指名無し（朗読，発表，討論）で行う。指名無し（朗読，発表，討論）とは，語句の通り教師が指名せずに，生徒が自ら起立して朗読・発表・発言を行うことである。

指名無し討論を行う過程での教師の指導・支援は以下のこととなる。

① 誰でも自由に発言できる雰囲気をつくる

生徒は他者の前で間違うことを恥ずかしいと感じる。その結果，発言することを嫌がるのである。生徒を発言させるためには，とにかく何でも発言を褒めてあげる。そうすることにより，生徒は安心して発言できるようになる。先生は何でも聞いてくれるんだというような，間違いを恐れない雰囲気づくりをする。

② 内部情報を蓄積させる

生徒が発言しないもう一つの理由は「わからないから」である。討論を行うためには，自分の考え（思うこと，わかったこと，感じたこと，調べたことなど）をできるだけたくさんノートに書かせる必要がある。書いたことを教師のもとにノートを持ってこさせ，必ず確認する。その時生徒へ言葉をかけ，認めてあげる。認められた生徒は自分の意見に自信を持ち，堂々と討論で発言することにつながる。

③ ノートの書き方を教える

内部情報を蓄積するためのノートの書き方を教師が指示する。たくさん書いてもらうために箇条書きで書かせる。結論から書かせ，次に理由や根拠を書かせる。（○○である。理由は○ページの○行目に書かれていたからなど）

④ 発言の仕方を指導する

発言はノートに書いたことを読むだけでもよい。但し賛成や反対，付け加えや質問などのどれなのかをまず言って自分の立場をはっきりさせる。相手を特定して意見を言ってもよい。「～さんに質問です」「～君に言います」などである。自分に言われたら沈黙せず必ず答える。即答できないときは，「少々まって下さい」などと答える。答えが出ない時は「～君の代わりに答えます」というように助けてあげてもよい。更に自分の発言を聞いていない生徒に対し，生徒自身で注意させる。「○○さん，聞いて下さい」というように，聞かせることも自分の責任であることを指導する。

Ⅲ　授業実践

1　単元名

第３章　世界の国々を調べよう。「中華人民共和国・アメリカ合衆国・ドイツ連邦共和国を調べよう」

2　単元について

(1) 教材観

本教材の中国・アメリカ合衆国・ドイツは，国調べの基本的視点や方法を学べて他国に応用が利きやすく，生徒による認知度も高く，更に資料が比較的揃っている教材である。「世界の国々を調べよう」の学習過程において，教科書・地図帳・資料集の活用の仕方，発表の仕方など学び方を学び，調べる技能・まとめる技能を身に付けることができる教材である。国規模の地域的特色をとらえる視点や方法の基礎を身に付け，学び方を学ぶ学習に適しているといえる。「世界の国々を調べよう」の学習において，学ぶ視点や方法を教師が指導することにより生徒が自ら学び，個人学習やグループ学習，発表や討論を行うことにより学びを共有化することができる。中国については，巨大な人口と広大な国土，人口の増加と偏り，少数民族，人口問題，農業生産と気候の関係，農業や工業の分布について調べ学習を行う。アメリカ合衆国については，超大国アメリカ，移民の国，大量消費社会の文化，世界に影響力をもつ農業，世界の最先端をいく工業について調べ学習を行う。ドイツについては，ヨーロッパの中央に位置する国として，国境をこえた活発な人や物の動き，環境への取り組み，結び付きを強めるEU独自の文化と，共通する文化について調べ学習を行う。

(2) 生徒観

年度始めの４月，最初の授業において社会科授業における目標を生徒自身に定めてもらった。「社会科のテストを 90 点以上取る」「社会科の成績を４以上取る」などの他に，「社会科は苦手だが頑張

って覚える」「社会科は暗記するのが多くて大変だが，頑張って覚える」などの目標が多々でてきた。逆に考えれば「覚えればよい教科」「暗記すればよい教科」という知識偏重の教科ととらえる生徒が多いといえる。同時に行ったアンケート結果も社会科の授業は「大嫌い」と「どちらかというと嫌い」の合計が37名中20名おり，その理由として「覚えることが苦手」や「たくさん覚えなければならないので大変」「眠りたくなる」などがあがった。授業における「学び方」技能は，調べる技能，表現する技能，聞く技能，話し合う技能の全てにおいて，女子のほうが男子を平均的に上回っている。教科書・地図帳・資料集の活用やノートのまとめ方において女子が上回っているのである。授業中に発言や発表を行う時，教師側からの指示等がない場合，知識・理解が高い生徒のみの活動となる場面が多い。発言や発表をしない理由は，「間違えると恥ずかしい」「緊張するから」などであった。他者の前で間違えることを恐れ，発言に慣れておらず，発言したくても消極的で発言することが苦手な生徒が男女ともに多々いるのである。全体的にみると学習態度がよく，授業に真剣に取り組むことができる生徒が多いので，学習過程において学び方を学び，誰でも自由に発言できる雰囲気をつくり，男女差や個人差に応じた適切な指導・支援を行うことにより生徒は自分に自信を持ち，自ら調べ，積極的に発言することができるようになると考える。

(3) 指導観

本単元の「世界の国々を調べよう」において中国・アメリカ合衆国・ドイツの三か国を取り扱う。その学習過程において，調べ方や学び方，見方や考え方を学び，身につけることができるように課題を追究させ，自ら学び考えることができるように指導・支援を行う。地域的特色を追究しとらえる学習として，国家規模の地域の特色をとらえる視点や方法を身に付けさせるのである。具体的学習の視点としてその国の位置や気候，人口の分布や構成，農業や鉱工業及び貿易，国や人の結びつき，生活文化，民族などについて個人調べ学習，グループでの調べ学習において学習の共有化を図りその過程を教師が確認し指導・支援を行う。「学び方を学ぶ」学習は，これまでの講義式一斉授業では困難である。学び方のほとんどが学習過程で培われるものであり生徒が作業的・体験的に学んで初めて効率的に育成できるものである。授業において教科書・地図帳・資料集等の活用の仕方，図書室の有効活用法，インターネット活用の仕方，ノートのまとめ方などを指導する。

また，楽しさを実感するために，生徒が自ら参加する授業を行う。それは，自ら学び考えたことを他者に表現・発信し，学習を共有化する場面の設定であり，その方法として指名なし討論を行い，より多くの生徒に発言の機会が与えられるようにする。学び方を学んだ後に，生徒が自ら学び，発表や討論学習を通して話し合いに参加し，そのことにより楽しさを実感できる授業を行う。

3　観点別評価の規準

観　点	観点別評価の規準
関心・意欲・態度	・世界の国々の地理的事象に対する関心が高まっている。 ・世界の国々に関する地図や統計その他の資料を用いた調べ学習に対し，意欲的に取り組んでいる。 ・世界の国々の地理的事象から見いだした課題をもとに世界の国々の地域的特色をとらえようとしている。
思考・判断	・国家規模の地域的特色をとらえる課題を追求するための視点や方法を考察し，適切に選択している。
技能・表現	・世界の国々に関する地図や国家単位の統計その他の資料を収集している。 ・世界の国々の地域的特色をとらえるために，地図や統計その他の資料を通し，有用な情報を適切に選択して活用している。 ・世界の国々の地域的特色を追求し考察した過程や結果をまとめたり，発表したりしている。
知識・理解	・地域の環境条件や他地域との結び付きなどと，人間の営みとの関わりに着目してとらえた世界の国々の地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。 ・国家規模の地域的特色を地図や統計その他の資料を用いてとらえる視点や方法，地理的なまとめ方や発表の方法を理解し，その知識を身に付けている。

4　指導計画と評価計画

時	学習内容	学習活動	評価計画
1時間	・世界の国々調べオリエンテーション。 ・調べる国を選択しよう。	・学習の視点と方法について学ぶ。 ・中国・アメリカ・ドイツの中から調べる国を選択する。	〔関心・意欲・態度〕 ・各国の地理的事象に対する関心が高まっている。
7時間	世界の国々を調べよう。 中国・アメリカ・ドイツの学校について調べよう。	・選択した国についての調べ学習（人口，生活や文化，資源産業，地域間の結び付き等について） ・図書室の本や資料，教科書，資料集，パソコン教室のインターネットを使って調べる。 ・調べた国についてまとめる。 ・中国・アメリカ・ドイツの学校についての調べ学習を行う。	〔関心・意欲・態度〕 ・教科書や参考本，地図や統計などの資料を用いた調べ学習に意欲的に取り組み，各国の地域的特色や各国の学校の様子をとらえようとしている。 〔思考・判断〕 ・各国の人口や生活・文化，資源産業，地域間の結び付き等について多面的・多角的に考えることができる。 〔技能・表現〕 ・インターネット，地図の読み取り，統計や資料のグラフ化，地図化などを通して有用な情報を適切に活用できる。
1時間	調べた事を発表する。	・自分の調べた国について発表する。他生徒の発表を聞き，学習を深める。	〔知識・理解〕 ・地図や統計その他の資料を用いて，とらえる視点や方法を理解し，各国の地域的特色に関する知識を身に付けている。
本時	国調べ発表・討論会。	・「中国・アメリカ・ドイツの学校について」（私はこの国の学校へ行きたい）〈討論学習〉	〔関心・意欲・態度〕 ・調べたことをもとに，すすんで発表・討論に参加している。

5　本時の指導計画

(1) 本時のねらい

調べたことをもとに，すすんで発表・討論に参加する。（関心・意欲・態度）

(2) 本時の授業仮説

他者に表現・発信する場において指名なし討論を行い，より多くの生徒に発言の機会が与えられたならば，学習活動参加への成就感を味わい，楽しさを実感できる授業となるであろう。

(3) 授業の流れ

過程	学習活動	指導上の留意点・教師の支援	評価規準と評価場面・方法
導入 5分	・本時の学習内容・めあてを確認する。	・教師の話をきちんと聞く態度ができているか確認する	
展開 35分	1，「中国・アメリカ・ドイツの学校について」調べたことを発表する。 ・発表と討論の仕方を確認する。 2，討論「中国・アメリカ・ドイツの学校について。私はこの国の学校へ行きたい」	・発表側と聞く側の態度に関する注意を行う。 ・発表がとぎれた場合，事前に教師がノートを確認しているので自信をもって発言するように促す。 ・発表者が多数起立した場合は譲り合うように促す。	◇評価場面（方法） ・調べたことを発表し，まとめる場面（発言観察・ノート・ワークシート） ★規準〔関心・意欲・態度〕 ・調べたことをもとに，すすんで発表・討論に参加している。

	・発言する，質疑応答する，意見を言う。	・発言することに意義があることを伝える。 ・発言者を褒める。 ・発言の全てを受け入れる。 ・討論を聞いていない生徒に注意を促す。	◇評価場面（方法） ・発表・発言・質疑応答する場面 （発言観察・ワークシート）
まとめ 10分	・本時の学習を終えて，わかったことや感想等を発表する。 ・自己評価を行う。 ・学習のまとめ ・教師の話を聞き，今日の授業をふりかえる。	・生徒の態度や発言のよさを褒め，意欲を喚起させる。 ・全員に記入させる。 ・ワークシートを回収する。	◇評価場面（方法） ・各自の活動を振り返る，授業のまとめの場面 （発表，自己評価） ・授業終了後，ワークシートを回収し点検する。

(4) 世界の国々を調べる視点

社会科学習調べる視点　　（学びの視点学習シート）

（教科書Ｐ９８の左側）　（教科書Ｐ１２９視点の例）

↓

〔 中国 〕

人口（総数，分布，構成），生活や文化（宗教，言語，民族），資源産業（農業，資源，工業）

〔 アメリカ合衆国 〕

生活や文化（移民，民族構成，生活の様子），資源産業（大規模農業，先端産業），地域間の結びつき（貿易）

〔 ドイツ 〕

結びつき（国境，交通網，政治的経済的な結びつき），生活や文化（環境問題，宗教，伝統文化）

調べてみよう

◆その国に対するあなたのイメージを書いてみよう。
◆地球儀や地図で国の場所，位置を確認しよう。
◆この国のすごいところ（得意技，○○が１番である，○○が上位である，有名なものなど）
◆人口や人口密度（世界第○位，多い，少ないなど），気候，気温や降水量など
◆農業（農業の特色，主な農産物，生産や輸出の多いもの，世界に与える影響）
◆工業（主な工業品，工業の特色輸出額の内訳や輸出量の多いもの）
◆貿易品目，世界の貿易品目のうちその国が占める割合，貿易相手（関係の深い国）
◆政治・経済的なまとまり（体制，交通網，旅行客や他の人の動き，物の動きなど）
◆主食や有名な食べ物，食文化の違いなど　◆民族構成
◆その国のお祭りや行事　◆言葉や宗教　◆伝統的な服装
◆文化　◆この国にしかないようなもの　◆日本との関わり

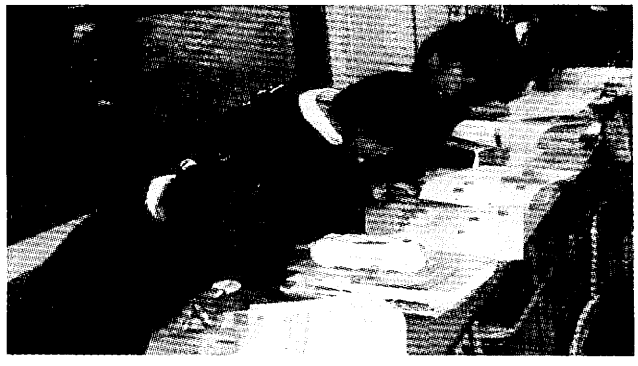
調べる方法

・資料の種類 →　教科書，地図，社会科資料集，図書文献，統計，写真，芸術・音楽・文学作品，映像，その国の製品や物産，その他
・資料の入手方法 →　学校の図書室，市立図書館，新聞，雑誌，テレビ，書店，施設，関連諸機関，パソコン（インターネット），聞き取り，その他

《　インターネットで調べよう　》

※「世界は今」　ｈｔｔｐ：／／ｎｓ．ｅｉｚｏｕ―ｋｙｏｕｚａｉ．ｊｐ
※外務省→各国・地域情勢→調べる国名を入力する（例→中国）

討論学習会の様子



他者の発表から学びを共有化する場面

Ⅳ　研究の考察

1　調べ方や学び方を身に付けることができたか。

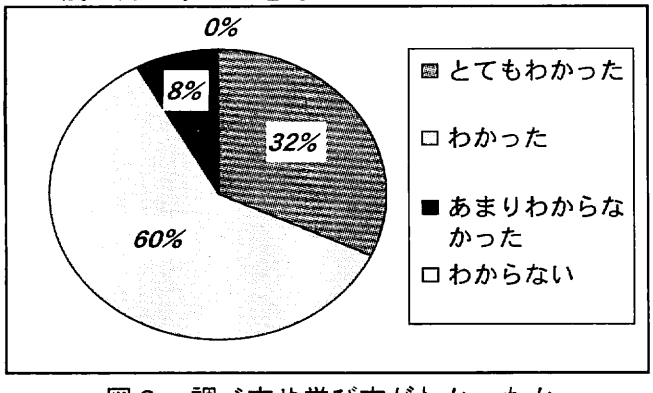


図２　調べ方や学び方がわかったか

図２は，「調べ方や学び方がわかったか」という問いである。「とてもわかった」が 32 %で，「わかった」が 60 %であり，合計は 92 %である。「あまりわからない」が８%で，「わからない」は０%となった。具体的に「どこで調べるか」に関して「図書室，コンピュータ室，学校，教室，校外の図書館，関係施設，家，近所」等があがった。「どのように調べるか」に関して，「教科書，資料集，インターネット，図書資料，ビデオ，新聞，雑誌，テレビ，プリント，ノートなどを活用して調べる」があがった。これは調べ学習の事前やその過程において生徒の発言や行動観察，ワークシート及びノートを毎時間確認し，調べ方や学び方を指導・助言してきたことが要因と考えられる。その結果図書室やコンピュータ室または関係施設などにおいて，図書資料やインターネットまたは新聞，雑誌など様々な資料を活用して調べるという，調べ方や学び方を身に付けることができたといえる。

2　自ら学び考えることができたか。

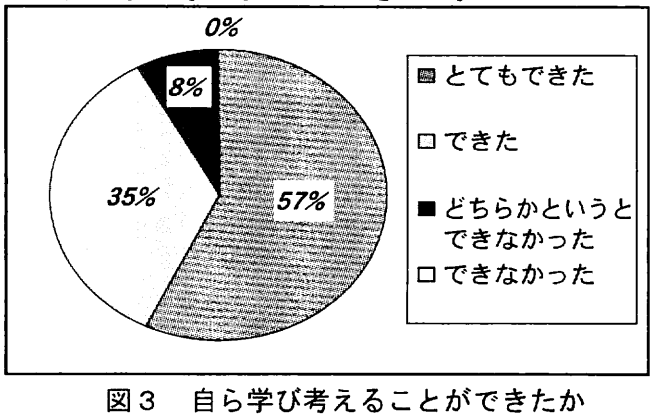


図３　自ら学び考えることができたか

図３は，自ら学び考えることができたかという問いである。「とてもできた」が 57 %，「できた」が 35 %で合計は 92 %となった。「どちらかというとできなかった」が８%，「できなかった」は０%である。これは学びの視点学習シートを教師が作成し，その視点に基づいて資料の収集や調べ学習に取り組むことにより，自ら学び考えることができるようになったと考える。更に，自ら考えることは表現する活動と一体となって行われ，自らの考えを他者へ表現・発信することによってその考えが確認されたり修正されたりする。授業の討論会において何も発言ができなかった生徒は一人であり，ほとんどの生徒が何らかの発言を行うことができた。討論会において使用するノートやワークシートを毎時間確認し，書いてあることは正しいので自信をもって発言するように指導を繰り返したことが要因と考える。調べ方や学び方，見方や考え方を学んだ結果，学び方の技能が身に付き，自ら学び考える生徒を育むことができたといえる。

3　授業の楽しさを実感することができたか。

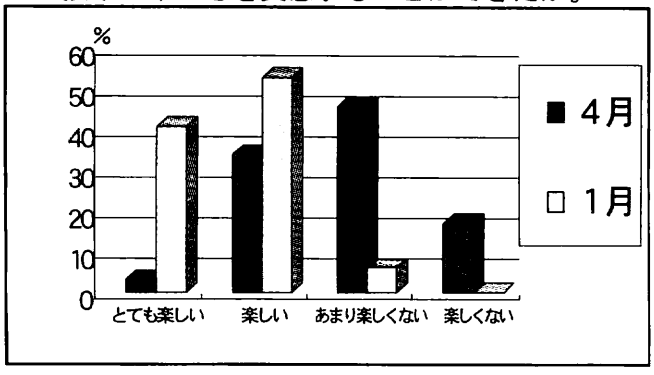


図４　社会科の授業を楽しいと思うか

図４は，４月の始めと検証授業後の１月に行った「社会科の授業を楽しいと思いますか」という問いの比較である。「とても楽しい」が４月の３％から１月は 41 ％となり，「楽しい」が４月の 34 ％から１月の 53 ％と，どちらも増加した。４月における「あまり楽しくない」の 46 ％と，「楽しくない」の 17 ％の合計は 63 ％であり，学級の６割以上が楽しくないと感じていた。それが１月には「あまり楽しくない」が６％，「楽しくない」は，一人もおらず０％となった。４月当初と１月の検証授業後では社会科の授業を楽しいと思う生徒の数が増加していることから，授業の楽しさを実感することができたと考えられる。更に，授業後の「生徒の感想」においても資料１のように，「楽しかったと」「このような授業をまたやりたい」などの感想が多数あがった。授業において学び方を学ぶことにより，学び方技能が身に付き，そのことをもとに自ら学び考えることができるようになった。自ら学び考えたことを他者に表現・発信する場において指名なし討論を行い，より多くの生徒に発言の機会が与えられた。そのことにより，意欲的に学習活動に参加し授業の楽しさを実感することができたといえる。

◇いつもと違って緊張した。でも自分から進んで発言できてよかった。討論会をして今日は楽しかった。
◇みんなたくさん意見を出していたのですごいと思った。自分は意見は言えなかったけど，発表できてよかった。また討論会をしてみたいと思った。
◇自分に質問されたけど，答えられなかったので次はもっと詳しく調べようと思いました。みんながいつも以上に発言していてよかった。またこんな授業をしたいと思いました。
◇討論して他の国のことがたくさんわかってよかった。またやりたいと思いました。
◇生徒同士のやりとりが楽しかった。一人一人まとめ方が上手で，また質問の応答が難しかった。色々な制度がわかりとても楽しかった。

資料１　討論学習会における生徒の感想

Ⅴ　研究の成果と今後の課題

１　研究の成果

(1) 事例を通して課題学習を展開することで，学び方の技能が身に付き自ら学び考える生徒を育むことができた。

(2) 自ら学び考えたことを他者に表現・発信する場において討論を行い，より多くの生徒に発言の機会が与えられたことにより，意欲的に学習に参加し，授業の楽しさを実感する生徒を育むことができた。

２　今後の課題

(1) 授業の楽しさを実感した生徒とできなかった生徒への更なる学習指導の工夫を行う。

(2) 楽しさを実感できる学習の年間指導計画への位置付けを行う。

＜主な参考文献＞

谷和樹著　『授業で学び方技能をどう育てるか』　明治図書　2001 年
向山洋一教育実践原理原則研究会著　『「討論の授業」の第一歩』　明治図書　2001 年
向山洋一教育実践原理原則研究会著　『誰でもできる指名なし討論の授業』　明治図書　2001 年